

リハビリテーション学部 シラバスの変更一覧

学年	ページ	開講科目
1	49	理学療法学概論
1	74～75	運動学実習
2	99	日常生活活動学
3	145	地域理学療法学

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMa01				
	●		●	●						
科目名	理学療法学概論				単位認定者	網本 和		評価の方法	授業内課題 （レポート等）	20 %
対象学科等 必修・選択 配当年次	P T	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題 （小テスト）	30 %
						授業時間数	30 時間		試験（筆記）	50 %
					授業形態	講義	授業回数		15 回	
授業の概要	本科目は、理学療法の基軸を理解するための科目である。理学療法の本質と将来の方向性を理解するために、理学療法の定義、歴史、役割、将来展望を学ぶ。また、理学療法の業務や考え方、対象疾患や治療手段、理学療法士に関連する法規や保険制度および世界の理学療法の現状と課題について学修する。									
到達目標	1. 理学療法の定義について説明できる 2. 理学療法士の専門性と役割について説明できる 3. 理学療法士の対象疾患と、その治療手段について説明できる 4. 理学療法士に関連する法規や保険制度について説明できる									
学修者への期待等	理学療法は様々な疾病・障害領域の評価と治療を担当することになるので、広く関心を持って予習し、講義後には当該領域について復習をし、今後の理学療法学の基盤を形成することが期待されている。									
回	授業計画・学修の主題				準備学修		事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当	
1	理学療法概要 理学療法とは～理学療法と倫理・哲学				事前学習：第1章・8章・9章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること		30	30	網本 和	
2	理学療法の歴史				事前学習：第12章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること		30	30	網本 和	
3	理学療法士を取り巻く法制度				事前学修：第11章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること		30	30	伊橋 光二	
4	理学療法の基盤 理学療法モデル				事前学修：第2章・7章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること		30	30	伊橋 光二	
5	理学療法の学問的体系化と研究法				事前学修：第10章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること		30	30	伊橋 光二	
6	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ①呼吸器疾患				事前学修：第5章・6章を読んでおくこと 事後学修：事後学習として復習すること		30	30	伊橋 光二	
7	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ②循環器疾患				事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	網本 和	
8	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ③神経系疾患（脳卒中）				事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	網本 和	
9	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ④運動器疾患				事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	網本 和	
10	理学療法の対象疾患の知識と治療手段 ⑤小児疾患				事前学習：第5章・6章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	網本 和	
11	理学療法組織と部門管理				事前学習：第13章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	渡邊 好孝	
12	理学療法と心理・メンタルヘルス				事前学習：第13章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	渡邊 好孝	
13	理学療法と地域包括ケア、災害への対応				事前学習：第11章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	渡邊 好孝	
14	理学療法士の組織とその活動				事前学習：第12章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	渡邊 好孝	
15	世界の理学療法 ～先進諸国の理学療法、発展途上国への援助				事前学習：第12章を読んでおくこと。 事後学習として復習すること。		30	30	網本 和	
アクティブ・ラーニング	☑該当なし ☐該当あり：キーワード（ ）									
教科書	『PTスタートガイド 基礎理学療法学概論 改訂第2版』 MEDICAL VIEW									
参考文献										
備考	授業内課題および小テストについては、当日または次回までにフィードバックを行う。									

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング				
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	ReFa011				
			●							

科目名	運動学実習				単位 認定者	原 和彦 森永 雄		評価の方法	授業内課題（プレゼンテーション・発表）	60 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2 年	開講時期	前期	単位数	1 単位		試験（筆記）	40 %
	O T	必修	2 年			授業時間数	40 時間			
					授業形態	実習	授業回数		20 回	

授業の概要	本科目では、複数の測定機器を用い実習体験を通して、運動学において学修した知識を応用する。主に、姿勢、重心、歩行周期、歩行距離の測定や歩行時の筋活動やエネルギー消費などについて測定し、各実験から得られた生体情報を分析・解釈することで、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。
到達目標	1. 運動学において学修した知識を応用し、筋力・重力、身体とてこ・モーメント・骨関節運動についてそのメカニズムを理解する。 2. 測定機器を用いて、姿勢と筋活動について計測、筋力測定を実施し、分析・解釈できる。 3. 測定機器を用いて、姿勢バランスを計測、動作解析を実施し、分析・解釈できる。 4. 測定機器を用いて、歩行および歩行時の筋活動を計測し、分析・解釈できる。
学修者への期待等	・実習では、身体運動や基本姿勢動作を計測対象とするため、動きやすい服装で参加してください。 ・データ分析やプレゼンテーション作成のために、Excel、Power Point、Wordの基礎的な操作ができることを求めます。これらのツールを積極的に活用し、初歩的な分析スキルを身につけてください。 ・課題遂行にあたっては、グループ活動を行います。他者と協力し、多角的な視点から課題に取り組む姿勢を期待します。

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
1	運動学実習の概要、生体力学の実習①（筋力、重力など）	事前学修：基礎運動学p19-46を予習する。 事後学修：受講内容の理解を深めるため復習する。	30	30	原 和彦 森永 雄
2	生体力学の実習②（身体とてこ、モーメント、骨関節運動）	事前学修：基礎運動学p82-88、p125-138を予習する。 事後学修：受講内容の理解を深めるため復習する。	30	30	原 和彦 森永 雄
3	実習1（姿勢と筋活動：計測）	事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備	30	30	原 和彦 森永 雄
4	実習1（姿勢と筋活動：グループワーク）		30	30	原 和彦 森永 雄
5	発表1（姿勢と筋活動）		90	30	原 和彦 森永 雄
6	実習2（筋力測定－測定肢位・測定部位の違い：計測）	事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備	30	30	原 和彦 森永 雄
7	実習2（筋力測定－測定肢位・測定部位の違い：グループワーク）		30	30	原 和彦 森永 雄
8	発表2（筋力測定）		90	30	原 和彦 森永 雄
9	実習3（姿勢バランス：計測）	事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備	30	30	原 和彦 森永 雄
10	実習3（姿勢バランス：グループワーク）		30	30	原 和彦 森永 雄
11	発表3（姿勢バランス）		90	30	原 和彦 森永 雄
12	実習4（動作解析：計測）	事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備	30	30	原 和彦 森永 雄
13	実習4（動作解析：グループワーク）		30	30	原 和彦 森永 雄
14	発表4（動作解析）		90	30	原 和彦 森永 雄

回	授業計画・学修の主題	準備学修	事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当
15	実習5（歩行計測：計測）	事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備	30	30	原 和彦 森永 雄
16	実習5（歩行計測：グループワーク）		30	30	原 和彦 森永 雄
17	発表5（歩行計測）		90	30	原 和彦 森永 雄
18	実習6（歩行時の筋活動：計測）	事前学修：UNIPAの配付資料および実習課題の確認 事後学修：課題発表、レポートの準備	30	30	原 和彦 森永 雄
19	実習6（歩行時の筋活動：グループワーク）		30	30	原 和彦 森永 雄
20	発表6（歩行時の筋活動）		90	30	原 和彦 森永 雄
アクティブ・ラーニング	□該当なし ☑該当あり：キーワード（実習実施、グループワーク、ディスカッション）				
教科書	「基礎運動学 第7版」医歯薬出版、ISBN 978-4-263-26682-3 *1年次購入済、 「エッセンシャル・キネシオロジー原書第3版 機能的運動学の基礎と臨床」 南江堂、ISBN 978-4-524-22653-5 *1年次購入済				
参考文献	「身体運動学 関節の制御機構と筋機能」メジカルビュー社、ISBN 978-4-758-1712-2				
備考	1・2回目はPT・OT合同で実施する。3～20回目はPTA・PTB・OT 3クラスで実施する。 ・授業内課題は、講義の中でその都度フィードバックを行います。				

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
原…理学療法士として急性期、回復期医療施設にて5年以上の臨床経験を有している。主に運動器、中枢疾患、切断のリハの臨床理学療法を行う上で必要となる運動学を指導する。 森永…理学療法士として医療福祉関連施設（大学病院、一般病院、老人保健施設、通所施設）にて5年以上の臨床経験を有している。

学修成果	1	2	3	4	5	科目ナンバリング					
	人間基盤力	連携協働力	専門実践力	学術探究力	課題解決力	RPMd14					
			●								
科目名	日常生活活動学				単位 認定者	小林武史 海藤公太郎		評価の方法	試験（筆記）	70	%
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	2年	開講時期	前期	単位数	2 単位		授業内課題 （小テスト）	30	%
						授業時間数 <td>30 時間</td> <td></td> <td></td>	30 時間				
				授業形態	講義	授業回数 <td>15 回</td> <td></td> <td></td>	15 回				
授業の概要	本科目では、日常生活活動の概念と範囲を理解し、正常な日常生活活動を理解した上で、動作の獲得方法や介助・支援の方法について学ぶ。本講義では、FIM（Functional Independence Measure）やBI（Barthel Index）などの標準化されたADL評価や個々の評価、介助法やポジショニング、ADLを支援する機器としての福祉用具、歩行補助具、車いすの構造と周辺用具（クッション、移乗補助器具）などの基本的な知識について学修する。										
到達目標	1. 日常生活活動学（ADL）の概念や範囲、ADLと生活の質（QOL）の関係性を理解することができる。 2. 標準化された評価（FIMやBI）の採点基準を理解し、ある程度の助言下で利用することができる。 3. ADLを支援する機器や環境についての視野を広げることができる。										
学修者への 期待等	・対象者の日常生活を改善する事は、生活の質を高める一つの手段である事を理解してほしい。 ・日常生活活動学は、他の科目と非常に関連性のある科目である。他科目との関連性を考慮した予習・復習を期待したい。										
回	授業計画・学修の主題			準備学修			事前学修 時間(分)	事後学修 時間(分)	担当		
1	ADLの概念や範囲、ADLとQOLの関係性			教科書P1～P19を読んでまとめる			30	30	宮城新吾		
2	ADLと障害（ICIDHとICF）			教科書P21～P36を読んでまとめる			30	30	宮城新吾		
3	できるADL（BI）の評価 IADL評価とその重要性			教科書P37～P43を読んでまとめる			30	30	只木正和		
4	しているADL（FIMセルフケア・排泄管理・移乗）の評価			教科書P45～P54のセルフケア・排泄管理・移乗の部分を読んでまとめる			30	30	只木正和		
5	しているADL（FIM移動・コミュニケーション・社会的認知）の評価とその他ADL評価法			教科書P55～P69のFIMの部分を読んでまとめる			30	30	只木正和		
6	ADLの運動学的分析に必要なバイオメカニクス			教科書P71～P83の移動用補助具の部分を読んでまとめる			30	30	只木正和		
7	姿勢の名称と姿勢分析のポイントと介入			教科書P85～P91の基本動作1の部分を読んでまとめる			30	30	海藤公太郎		
8	ADLを支援する機器（食事・整容・更衣・入浴動作関連）			教科書P93～P104の基本動作2の部分を読んでまとめる			30	30	海藤公太郎		
9	ADLを支援する機器（トイレ・起居・移乗動作関連）			教科書P107～P104の基本動作3の部分を読んでまとめる			30	30	只木正和		
10	歩行の重要性と歩行補助具の名称と役割			教科書P107～P114の移動用補助具の部分を読んでまとめる			30	30	只木正和		
11	車いす（名称、分類、基本寸法、周辺用具）			車いすについて調べる（30分程度）			30	30	小林武史		
12	福祉用具支給制度とその他支援機器（ECS、意思伝達装置、介護ロボットなど）			教科書P125～P146のセルフケア、ADLを支援する機器の部分を読んでまとめる			30	30	海藤公太郎		
13	生活環境とADL、QOLの関係性			教科書P149～P156の住環境整備の部分を読んでまとめる			30	30	海藤公太郎		
14	生活環境と法的諸制度			教科書P157～P173の生活環境の部分を読んでまとめる			30	30	小林武史		
15	生活環境としての住宅と住宅改修			教科書P174～P184の生活環境の部分を読んでまとめる			30	30	小林武史		
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）										
教科書	南江堂 シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第3版 ISBN：978-4-524-24578-9										
参考文献											
備考	授業内課題は、次の授業時に返却・解説する。										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
担当教員は理学療法分野で5年以上の実務経験を有しており、経験に基づく実践的な授業を行います。

学修成果	1 人間基盤力	2 連携協働力	3 専門実践力	4 学術探究力	5 課題解決力	科目ナンバリング RPMf01				
		●	●		●					
科目名	地域理学療法学				単位 認定者	高橋 仁美		評価の方法	試験（筆記）	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	P T	必修	3 年	開講時期	前期	単位数	1 単位			
						授業時間数	15 時間			
				授業形態	講義	授業回数	8 回			
授業の概要	地域理学療法学とは、動作や活動への多面的な働きかけにより人々が地域でのくらしを主体的につくりあげられるよう探究する学問である。地域包括ケアシステムが展開されている現在、入所施設や通所施設、訪問における理学療法の知識を得るだけでなく、介護予防、健康増進、さらには災害時支援など医療機関以外でも理学療法が活用されていることを学び、理学療法の領域の広がりを理解する。そして、制度・分野ごとの「縦割り」や、「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が地域をともに創っていく社会「地域共生社会」について学修する。									
到達目標	1. 地域理学療法学の概念・考え方を理解することができる。 2. 地域理学療法の関連法規や多職種連携について理解を深めることができる。 3. 介護老人保健施設、通所・訪問施設などの理学療法の知識を深めることができる。									
学修者への期待等										
回	授業計画・学修の主題				準備学修				事前学 修時間 (分)	事後学 修時間 (分)
1	地域理学療法学とは				事前学修：教科書の第1章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
2	地域包括ケアシステムと地域連携				事前学修：教科書の第2章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
3	地域理学療法に関する制度				事前学修：教科書の第3章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
4	地域理学療法の方法論① 介護老人保健施設				事前学修：教科書の第5章の該当部分を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
5	地域理学療法の方法論② 通所施設				事前学修：教科書の第5章の該当部分を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
6	地域理学療法の方法論③ 訪問				事前学修：教科書の第5章の該当部分を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
7	地域理学療法の方法論④ 健康増進・介護予防				事前学修：教科書の第5章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
8	地域理学療法の方法論⑤ 国際支援、災害時支援、これからの地域理学療法				事前学修：教科書の第7章を読む 事後学修：授業内容を整理し、まとめる。				30	30
アクティブ・ラーニング	☒ 該当なし ☐ 該当あり：キーワード（ ）									
教科書	「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学」医学書院 ISBN:978-4-260-05007-4									
参考文献										
備考										

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)